

【特別記事】阪神淡路大震災から学ぶ災害時に気をつける事

みなさん今東日本大震災で被災はございませんでしたか？被災に遭われた方にはお見舞い申し上げます。今回の地震で私たちNPOでも被災に遭われた方に何らかの形で役に立ちたいと思い、阪神淡路大震災を例に取り、皆さんに注意してもらいたい事を電線・電柱を観点に記事にしました。



阪神淡路大震災で11000本もの電柱が被害を受けました。そして電柱の倒壊による道路封鎖が、復旧を困難にさせる原因の一つになりました。

そこで今回、兵庫県神戸市にある阪神・淡路大震災記念法人と防災未来センター(<http://www.dri.ne.jp/>)の職員の方に阪神・淡路大震災で電線、電柱でどのような被害を受けたのかをヒアリングしました。

■ブレーカーを落とそう！



災害時、早くライフラインを復旧するために私たちが出来る事がありますか？

避難する際、出来るだけブレーカーを落としてから非難してください。震災で電気が使えなくなって、もう一度電気を通す時、まず全ての建物のブレーカーが落ちている事を確認しなければなりません。ブレーカーを落としていないのに通電したら第二次災害の火災がおきてしまうからです。阪神・淡路大震災ではその作業にとっても時間を費やしたそうです。5日間で神戸市の全エリアを送電する予定でしたがあまりにもこの作業が長引い

て2日伸びたそうです。そこで非難する前に家の門にガムテープを貼り、そこに「ブレーカーを落としました。」と書いてあるととても助かり、早くライフラインも復旧します。

通電した後も震災の影響で配線に傷があると、傷の部分が摩擦で火災が起きる危険性があるので注意して下さい。

■ブレーカーの落とし方

ブレーカーが上がっている時に通電して電気をを使う事が出来ます。震災の時はこのブレーカーを下に下ろしてください。ブレーカーはキッチンや洗面所の近くにあります。一度ご自宅のどこにブレーカーがあるのか確認しておいて下さい。

■倒れている電柱や電線には近づくな！！

震災で倒れている電柱や電線はまだ通電されている可能性があります。触れると感電する恐れがあるので絶対に近づかないでください。

✍ [エッセイをお寄せください。] ✍

皆さんが日本の電柱・電線社会の現状について感じられていることをエッセイとして綴り、お送りください。

本会報の【随想】欄に掲載させていただきます。

1000～1500文字、簡単な自己紹介（お仕事、住所等）とポートレット（顔写真）を添えて下さい。

送付先はE-Mail: info@NPNPC.org です。 投稿をお待ちしています。

NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 井上、志熊、根井

「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう！

美空～MISORA～

第32号

発行日:2011年3月28日(月)

発行者:NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

東日本大震災についてお見舞い申し上げます

東日本大地震は、電力供給、送電システムのあり方について根本的に見直すべきことを、はっきり示したと思います。

日々TV映像を通じて見る痛ましい光景の一つに、電柱・電線類が全滅し、安全であるはずの避難所では、光も暖かい空気も、情報もない中、暗く冷たい毎日を過ごす数十万人の姿があります。

原発事故対策も、結局は送電の確保が鍵であることが判明したものの、展望のない中での苦闘が続いています。「安全神話」はもろくも崩れたのです。

まだ被災の全容がつかめない状況なので、今言えることは限られていますが、地中化の効果、課題について、これから注視し、教訓をしっかりと導き出し、これからの日本の地中化政策・技術のあり方に提案できるようにしたいと考えています。



理事長 高田 昇

【理事会報告】日時:3月24日(木) 17:30～18:30 場所:大和ハウス 会議室

理事会で“2011年の活動について”の審議が行われました。

前回の理事会において今年の活動についての審議が行われ、今年は次の3項目を重点テーマとして活動することが決まりました。そして今回各項目を担当する理事が決まりました。

- ① 技術開発委員会:森理事、山本理事、井上様(法人会員)
- ② 世論形成委員会:長谷川副理事長、木村副理事長、荒関様(法人会員)
- ③ 事業協力委員会:高田理事長、井上理事

今後、実際の進め方について各委員会で決定していきます。

NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 (株)ジオリズム内 根井 井上

Mail: info@NPNPC.org、 <http://nponpc.org>

Tel: 072-653-5811 Fax: 072-653-5833

【特集】第2の故郷をつくる。フロイデン八千代の電線類地中化について

今回は、菜園や田舎暮らし生活のできる『第2の故郷』として人気のある、兵庫県多可郡多可町にあるクライנגアルテン「フロイデン八千代」の電線類地中化について取材しました！

■クライングアルテンとは？

クライングアルテン (klein garten) とは、ドイツ語で『小さな庭』という意味をもっています。もともとはドイツにおいて1864年に最初の『シュレーバーガルテン協会 (クライングアルテン協会)』が作られ、ドイツ各地に広まりました。そこでは、野菜や果樹、草花が育てられ、多くはラウベ (laube)



とよばれる小さな小屋が併設されているのが特徴です。日本では平成4年くらいに日本最初のクライングアルテンができました。以来、各地の自治体で主に小さな宿泊施設付きの市民農園と定義されました。温泉施設やスポーツ施設を併設されることも多く、自然回帰運動の拠点になっています。家族の原点のつながりや、子ども孫達への豊かな自然教育の場や、老後の生き甲斐等を担う、大きな役割を果たしています。大きな費用をかけず、また商業ベースの観光ではない、菜園や田舎暮らし生活のできる『第2の故郷』が作れ、自然の息吹を味わいつくす体験をすることができます。

■フロイデン八千代とは？

兵庫県多可郡多可町八千代区に位置し、豊かで美しい自然に囲まれ、自由な滞在生活を通じて、農業体験、ワークシェアリング等が行える、滞在型市民農園です。

- ・半農 (自己完結型の農業)
- ・半勤 (ワークシェアリング)
- ・半X (主観的幸福感 (自己実現) をもった生き方)

この全てを満たす、田舎暮らしを求める都市住民の新たなライフスタイルを提供しています。

詳しくは、以下のページでご確認ください。

日本クライングアルテン研究会：<http://homepage3.nifty.com/jkg-ken/>

フロイデン八千代：<http://www.takacho.jp/freuden/freuden.htm>

当 NPO ではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録ください！
→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

■フロイデン八千代の電線類地中化について

都会の喧騒を離れ、田舎でのんびりとした生活を送りたい方に、場を提供するフロイデン八千代。ここでは、電線類地中化も行われていました！

それでは、取材した内容を以下の4点で説明していきます。

1. 電線類地中化された時期
2. 電線類地中化の費用負担
3. 電線共同溝、ケーブルの管理
4. 事業の今後について

1. 地中化された時期

第一期工事が行われた、平成4年に電線類地中化がなされたそうです。当時から、都市住民が自然に囲まれた田舎暮らしを体感するというコンセプトであったので、電線・電柱をなくすために電線類地中化を同時に行おうと決めておられたそうです。

2. 電線類地中化の費用負担

国の助成金と、施設利用料に含まれているそうです。

3. 電線共同溝、ケーブルの管理

事業主体は、多可町ですが指定管理者に委託することによって、フロイデン八千代 管理組合の小牧さんという方が、電線共同溝とケーブルの管理をなさっています。

4. 事業の今後について

現在、フロイデン八千代は満員 (60 戸) で約 100 名の方が予約待ちの状態だそうです。これは、「自分で作ったものを自分で食べる」ということに魅力を感じられる方が多いからだそうです。少子高齢化が進む中、子供もお年寄りも自然の中での暮らしを体験できるこのような施設は、今後どんどん需要が高まっていくと思います。しかし、投資されたお金に対してリターンが少ないため、国・町も予算を出してくれず、このような施設を広げていくのは難しいとおっしゃっていました。



当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！
<http://nponpc.org/top.aspx>

